

報道関係者各位

## **都心全域と五輪施設をつなぐ自転車レーン網「TOKYOサイクルネットワーク」を提唱**

### **市民の「いいね！」を都知事に届ける『+1 LANE PROJECT』始動**

**都知事選時のオンライン署名キャンペーンに続き、ネットを活用した新たな行政参加の形を提示**

特定非営利活動法人 自転車活用推進研究会（品川区上大崎 理事長：小林成基 以下「自活研」）は、都心全域と2020年東京オリンピック・パラリンピック施設を網羅する自転車レーン網（注）「TOKYOサイクルネットワーク」の構築を提唱するオンラインキャンペーン『+1 LANE PROJECT』（以下「本キャンペーン」）を開始し、2014年11月7日に特設ウェブサイト（<http://plusonelane.tokyo>）をオープンしました。

ウェブサイト上では閲覧者からの賛同を示す「いいね！」をリアルタイムでカウントし、表示します。舛添都知事が就任一年を迎える2015年2月（日程調整中）に、自活研が賛同状況レポートとともに都知事宛ての提言書を東京都に提出し、意見交換等を図っていきます。

注）ここでいう自転車レーンとは、車道上の自転車レーンの他、車道歩道との構造分離・進行方向の規制・交差点での連続性が担保された自転車道も含まれます。

#### **世界の「行政」が自転車の価値を見なおしている**

世界の多くの国・都市の「行政」が、渋滞・大気汚染・ヒートアイランド化・交通事故・駐車スペース不足・医療費の増大といった現代都市社会が抱える問題を解決する切り札のひとつとして自転車の価値に注目し、自転車の活用を促す政策を次々と導入しています。

#### **世界に大きく遅れをとる東京都**

自転車活用政策の核をなすのは、自転車が歩行者・クルマと無理なく共存して安全快適に走ることができ、走行空間の整備拡充です。しかしながら、残念なことに東京都の自転車走行環境は世界的に極めて大きく見劣りしていると言わざるをえません。

東京都の自転車レーン（歩道上の自転車歩行者道および自転車専用道路は含まない）の総延長はわずか9kmと、総延長900kmといわれるロンドンや1500kmといわれるニューヨークの100分の1に満たず、自転車の多くは70年代に車道から追いやられたまま、歩行者を脅かしながら歩道を走っているのが実情です。

その結果、歩行者と自転車の事故の4割が歩道上で発生するなど、日本は世界的に珍しい「歩道を歩行者が安心して歩けない国」になってしまっています。

**「TOKYOサイクルネットワーク」を提唱**

自転車の持つ本来の利点を存分に活かすためにも、また、さらなる高齢化の進展をふまえ歩道を歩行者が安心して歩ける空間に戻すためにも、自転車走行空間の整備は東京にとって喫緊の課題です。

その第一歩として、自活研は、東京の道路環境を熟知するメッセンジャーの実走評価などを参考に、都心全域と五輪施設を網羅する自転車レーン網プラン「TOKYOサイクルネットワーク」を策定しました。

自転車走行空間整備には、交差点等における局所的な連続性と、都市全体における広域的な網羅性が担保されていることが重要ですが、2012年10月に東京都が発表している「東京都自転車走行空間整備推進計画 (<http://www.metro.tokyo.jp/INET/KEIKAKU/2012/10/DATA/70mao102.pdf>)」では断続的に「優先整備区間 (p. 57)」が定められているのみで、広域的なネットワーク計画は策定されていません。

自活研は、東京都が「TOKYOサイクルネットワーク」もひとつの参考として、早急に長期的な工程表と都心全域の自転車レーンネットワーク計画を策定することを提案し、必要とあらばあらゆる協力を惜しみません。

### 都知事選時の署名キャンペーンに続く、ネット時代の新たな行政参加

自活研は、2014年2月の東京都知事選において、立候補者に東京の自転車環境整備の公約を求めるオンライン署名キャンペーン「新都知事とつくろう、TOKYO自転車シティ」 (<http://cycle-tokyo.com>) を実施し、当選した舛添要一氏など得票上位3名を含む6候補者から公約・賛同の回答を得るなどの成果を上げました。

本キャンペーンは、「新都知事とつくろう、TOKYO自転車シティ」で高まった自転車環境整備の機運のさらなる加速を図るとともに、インターネットを活用した新たな行政参加の形を提示するものです。

### 多彩なコンテンツ

本キャンペーンは2020年までの長期的な取り組みであると位置づけて、様々なコンテンツを用意し、随時追加していきます。スタート時点における代表的なコンテンツは以下のとおりです。

#### <TOKYOサイクルネットワークプラン>

自転車レーン設置推奨路線を地図の形式で提示します。

#### <世界の自転車レーン>

オランダの懸架式自転車ラウンドアバウトなど、理屈抜きで思わず走りたくなるような、世界各地の魅力的な自転車レーンを紹介します。

#### <発見、自転車ライフスタイル>

カーゴバイクでお子さんを保育園に送迎している親子など、ちょっと変わった、素敵な自転車生活を送っている人たちを紹介します。

自活研理事長の小林成基は、次のようにコメントしています。

「都知事選時の署名キャンペーンでも申したとおり、オリンピックは都市が生まれ変わる絶好の機会です。2012年開催都市のロンドンも、2016年開催都市のリオデジャネイロも、オリンピックを機に自転車走行空間を充実させ、歩行者・自転車・クルマが安全で無理なく共存できる街づくりに舵を切りました。次は私たちの街、東京です。2020年までに都心全域と五輪施設をつなぐ自転車レーンネットワークをつくる — 難しいと感じる方もいるかもしれませんが、行政と市民の協力があれば、実現は十分可能です。本キャンペーンが、その第一歩が踏み出されるきっかけになることを願ってやみません」

以上

<特定非営利活動法人 自転車活用推進研究会とは>

内外の自転車政策の調査・研究と、我が国における総合的自転車政策確立のための提言取りまとめを目的として活動するNPO法人です。

発足当初から「自転車活用推進議員連盟」と密接に連携し、自転車関連諸法の改正あるいは新法の骨格を模索して精力的な活動を行っています。

2000年9月に財団法人社会経済生産性本部が事務局となって発足し、2006年3月に同法人から独立、同年7月に特定非営利活動法人としての認証を東京都から受けました。

<本件に関するお問い合わせ先>

自転車活用推進研究会 理事長 小林成基 [kobayashi@cyclists.jp](mailto:kobayashi@cyclists.jp) 080-3918-2932

同 事務局長 内海潤 [jun.utsumi@gmail.com](mailto:jun.utsumi@gmail.com) 090-5301-3207

キャンペーン運営責任者 小林正樹 [masakikoba@gmail.com](mailto:masakikoba@gmail.com) 090-2165-7927